

令和4年度事業報告書

令和4年度の当センターは、一昨年から続いた新型コロナウイルス感染症による事業活動の制限が少しずつ緩和された中、前年度と比べ契約額、会員数ともに増加の結果となりました。

まず、契約額について、「請負・委任」「派遣」事業の合計値で、前年度比3.6%増の9億3,164万円となりました。内訳は、「請負・委任」事業が前年度比2.4%増の8億6,664万円で、昨年度末に葬祭事業や複数の管理系職種契約の終了がありましたが、リサイクル事業等の拡充等があり、契約額が増加となりました。また「派遣」事業については、保育関連業務等の積極的な就業開拓を行い、前年度比22.6%増の6,500万円と大きく伸びたところです。

次に会員数ですが、前年度比68名増の2,743名(男性1,855名、女性888名)となりました。チラシ配布、町内会・自治会の看板掲示、地域情報誌の掲載等の会員拡大策を行い、入会説明会についても、出張形式の他、職種限定の募集やオンライン視聴等を実施しました。また退会抑制策として、新たに健康体操を開始した他、未就業会員への積極的な声掛け等を行い、会員数が3年ぶりにプラスに転じたところです。

尚、役員について、理事定数増員の定款変更を行い、ジェンダー平等の観点から女性理事3名が新たに選任されました。また免税事業者である会員への配分金に含まれる消費税相当額は、インボイス制度導入前は全額控除できましたが、導入後はセンターが納めることになり、消費税の納税額が増えることとなります。この財源の手当をするため、特定費用準備資金の積立を実施しました。

その他、安全・適正就業については、傷害事故の増加により事故件数が前年度比6件増の29件となり、また適正な就業機会を確保するため、3年目となる管理系職種エントリー制度の定着を図りました。更に、社会奉仕活動については、全市的に展開した「市内一斉美化清掃」に過去最高の304名が参加する等、延べ1,272名が活動を行いました。

尚、平成31年度にスタートした第六次中期計画は、令和5年度が最終年度となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現状を鑑みますと事業実績の目標達成は極めて難しいと言わざるを得ない状況となっています。

以上、厳しい状況下ではありますが、地域に根差した事業を行う公益法人として今日まで活動が出来たことは、町田市を始めとする行政並びに上部団体のご支援とご協力、市民の皆様のシルバーへの深いご理解とご協力、そして会員の皆様の真摯な活動の賜ものであると、ここに改めて感謝申し上げる次第です。

項目別には、以下のとおりです。

1. 広報・周知活動

- (1) 全会員に対して会報「銀齢だより」を6回配付し、センターの動向や会員活動等の情報共有を図りました。また地域班長向けには、毎月「センター短信」を発行しました。
- (2) パンフレット、ポスターをリニューアルし、各施設への配架（48ヶ所）や町内会・自治会掲示板にポスター掲示（3回）を行いました。また会員拡大向けチラシを市内全戸に配布した他、新聞折込み（2回）を行いました。更に、より詳細な情報を提供するためにホームページの充実を図りました。
- (3) 地域情報誌等への掲載は、市の協力により「広報まちだ」に2回、「タウンニュース」に6回掲載した他、「町田市民ホールコンサートガイド」とのバーター掲載や住宅地図への全ページ広告を行いました。
- (4) 市民センター（3ヶ所）に設置している町田市政情報「まちビジョン」で、デジタルサイネージCM放映を開始しました。
- (5) イベントについては、主催事業である「シルバー交流まつり」（来場者・参加者計211名）を4年ぶりに開催した他、町田市との共催事業である「シルバー展」（来場者120名）や、市内各種のイベント（「まちカフェ!」「南地区福祉フェア」等）に参加をしました。また指定管理者事業として、「わくわくプラザ町田作品展」（来場者249名）を開催しました。
- (6) 市民へのPRを図るため、屋外作業班を中心にビブスの貸与を行いました。
- (7) センターの認知度向上を図るため、わくわくプラザ町田に「きんじょの本棚 銀の架け橋（昭和⇄未来）店」をオープンした他、「シルバー連絡所」看板を役員・班長宅を中心に設置（52ヶ所）しました。
- (8) ハローワークの「シニア職業ガイダンス」において、入会案内（計27回）を行いました。

2. 就業拡大・適正就業

事業実績の内訳は、以下のとおりです。

契約額

(単位：円)

事業区分	令和4年度	令和3年度	増減	比率
請負・委任	866,644,324	846,469,339	20,174,985	2.4%
労働者派遣	64,998,052	52,994,895	12,003,157	22.6%
合計	931,642,376	899,464,234	32,178,142	3.6%

請負・委任事業内訳

事業区分	受託件数	実人員	延人員	契約額
請負・委任	12,682	2,191	180,285	866,644,324

労働者派遣事業内訳

事業区分	派遣現場数	実人員	延人員	契約額
労働者派遣	52	132	11,383	64,998,052

- (1) 公共事業の受注に向けた働きかけとして、市長訪問を始め、各課への訪問活動等を実施しました。また新規就業先の開拓のため、幼稚園・保育園等を中心に就業開拓活動を行いました。
- (2) 地域の自主的な会員活動として受注拡大を目指す「一人一紹介運動」は6班14件の協力がありました。
- (3) 一般家庭の仕事について、新たに「暮らしサポート隊（家事援助周辺事業）」を立ち上げ、就業の拡大並びに発注者に対する待ち時間の短縮を図りました。
- (4) 施設管理希望会員に対するエントリーを2回行ない、318名のエントリー中、長期就業交代者43名を含む103名の就業が決定しました。
- (5) 法令順守等の適正就業について、国の示すガイドラインの理解を深めるため、会員には定例日研修等、発注者に対しては書類等を通じ周知を行いました。
- (6) 除草並びに植木剪定作業等の契約について、会員の能力に応じた就業並びに発注者に対する公平性を担保するため、請負形式への移行を進めました。

なお大型受注における地域班の展開事業は、以下のとおりでした。

・「まちだの教育特別号」全戸配布（春）	実人員	358名
・公園除草（春）	〃	292名
・ごみ袋無料配付	〃	388名
・「ごみ収集カレンダー」全戸配布	〃	370名
・公園除草（秋）	〃	304名
・「まちだの教育特別号」全戸配布（年末）	〃	387名
・「ちょこっと共済パンフ」全戸配布	〃	370名

3. 調査研究・相談

- (1) 就業相談について、窓口対応の他、毎月の定例相談を23回実施し、延

246名の相談がありました。

- (2) 未就業会員の状況把握と退会抑制を図るため、「未就業会員状況調査」を実施しました。

＜調査数 785名 回答者数 405名 就業可能者 28% (大型受注以外を含む)＞

- (3) 会員、及び非会員の一般高齢者の健康水準等について、本人がセルフチェックできる「暮らしと健康に関するアンケート」を、専門機関に協力して行いました<62名>。

- (4) 全会員に対して、「ボランティアに関する意識調査」を実施しました。

＜回答者数 164名 現在参加している 43% 今後参加したい 38%＞

4. 研修・講習

- (1) 入会説明会について、定例開催の他、出張形式（鶴川市民センター）や職種限定（施設管理、保育補助、植木剪定）を含め計 28 回行ないました。また動画視聴方式を導入し、申込手続きまでの利便性を図りました。

- (2) 定例日研修（マナー、安全就業、適正就業）について、新入会員を中心に計 24 回（333 名）実施しました。

- (3) 地域班の役割やセンターの現況の認識のため、地区担当委員・地域班長研修を 4 回（96 名）実施しました。

- (4) 接遇のスキル向上を目的に「職種別接遇力向上研修会」を 2 回（40 名 公共施設管理）実施しました。

- (5) 仕事別グループについて、自発的なミーティングを奨励するとともに、グループ会議や研修を、リーダー向け 29 回を含む計 93 回（延 913 名）実施しました。

- (6) 人手不足分野の人材育成のため、「植木剪定座学講習会」を実施（10 名）しました。

- (7) シルバー会員が地域の支え手となれるよう、「認知症サポーター養成講座」を定例日研修時に実施（24 回）しました。

- (8) (公財) 東京しごと財団の研修には、「ステップアップ接遇（施設管理等・利用者対応）」「刈払機作業従事者安全衛生教育講習」「襖の張替え・障子の張替え」「包丁研ぎ」「ステップアップ接遇（クレーム対応）」「ハウスクリーニング」「植木の基本と応用（剪定）」「植木の剪定技術アップ講習」で 10 回（21 名）会員が受講した他、役職員研修に計 13 回（16 名）参加をしました。また第七ブロック主催の研修や他組織の講習には計 24 回（56 名）参加をしました。

- (9) (公社) 八王子市シルバー人材センターより、次長職の研修派遣者（1 名）を迎え入れました。

5. 組織整備・活性化

- (1) 定例理事会、臨時理事会について、リモート会議を含め計 23 回開催し、入会承認等の規程に基づく決議事項の他、重要方針の決定や諸規程の整備等を行いました。
- (2) 専門委員会について、リモート会議を含め毎月開催し、所掌事項の検討を行った他、役員・専門委員会委員合同会議を開催（26 名）し、情報の共有や連携の強化を図りました。更に、エントリー制度の定着を図るため適正就業推進委員会を 6 回開催しました。尚、定例委員会である「適正就業委員会」は、その所掌を「適正就業推進委員会」に引継ぎ、閉会としました。
- (3) 持続可能な社会の実現を目指す「SDGs」におけるセンターの方針について、諸会議や広報媒体等を通じ周知啓発を図りました。またそれを具現化していくため「SDGs 推進チーム」を新たに立ち上げました。
- (4) 役員・地区担当委員・地域班長の合同会議を分散で開催（3 回、82 名）し、事業報告を含めたセンターの現況・課題、また今後の方針について認識を共有しました。
- (5) “地域のことは、地域で解決する” 体制づくりを目指し、地域班活動をスムーズに行うため、地区担当委員合同会議を開催（17 名）した他、地区担当委員と班長の合同連絡会や意見交換会を計 26 回実施しました。尚、地域連絡会はコロナ禍の制限により、2 回の開催に留まりました。
- (6) 事務局体制を強化するため、次年度に向けて職員の採用試験並びに採用手続きを行いました。
- (7) 入会促進並びに“仲間づくり”を中心とした既会員の退会抑制策について、会員の福利厚生部門を担う「共助会」組織の協力をいただきました。
- (8) 清掃職について、割当の効率化並びに就業相談や現場巡回を行うコーディネーターの設置等を通じ、グループ化を進めました。
- (9) スマホ等を活用し、最新情報の閲覧や配分金の明細の確認等が出来る「Smile to Smile（通称：スマスマ）」について、新入会員全員に仮パスワードを発行した他、個別相談会を開催し、利用の促進を図りました。更にスマホ等を活用した就業報告書の提出や、新たに LINE アプリ等の活用について利用促進を図りました。

6. 財政の安定化

- (1) 支払いの利便性並びに事務の軽減を図るための会費の自動引落としは、多くの会員の協力を得て 2,584 名（94.2%）となりました。
- (2) 会報誌「銀齡だより」紙面における一般有料広告について、4 社からの

依頼があり、延 18 枠の広告掲載となりました。

- (3) リモート環境の整備を強化し、在宅で会議を行うようにした他、LINEWORKS 等の迅速で安価な情報伝達手段を積極的に活用し、業務の効率化に取り組みました。
- (4) 令和 5 年 10 月から導入される「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」について、大幅な増加が見込まれる消費税額に対応する財源の負担軽減策等の検討を行い、特定費用準備資金の積立を実施しました。
- (5) 経費削減等の自助努力と並行しながら、行政に対して公的補助の維持・増額の理解や働きかけを行ないました。

7. 安全管理

- (1) “安全は全てに優先する”の基本理念のもと、「安全就業基準」の周知等、組織一丸となって“ノートラブル・ノークレーム”を目指しましたが、傷害事故の増加により、残念ながら保険該当事故で前年度比 6 件の増加となりました。
 - ・ 傷害事故 23 件（前年度比 7 件増） うち経路途上 8 件
 - ・ 賠償事故 6 件（前年度比 1 件減）
- (2) 「安全フォーラム」を発行した他、危険予知等の安全就業リーフレットの配布等、全会員に対し安全就業に関する情報の周知を行いました。また安全意識を高めるため、ポスターの掲示や、「安全標語」並びに「ヒヤリハット体験記」の募集を行いました。
- (3) 仕事別グループの説明会や研修において、安全情報の提供を行いました。
- (4) 各現場における就業前の準備体操について、安全巡回等を通じて奨励をした他、新たに後期高齢会員を中心にオンライン配信を含めた健康体操を始めました。
- (5) 安全意識の向上と、事故発生時の対応に役立てる目的で、緊急連絡先入りの「安全心得カード（オレンジカード）」所持の徹底を図りました。
- (6) 熱中症予防対策として、オリジナルガイドラインの周知を図った他、熱中症予防のチラシの配布を行いました。
- (7) 安全就業に関連した研修は、定例日研修参加者（333 名）の他、「交通安全講習会」（35 名）、並びに職種別安全講習を計 3 回（除草班 29 名、植木班 38 名、刈払機作業員 17 名）実施しました。また転倒リスクを把握し、転倒事故の防止を目的に、清掃グループ「フレイルチェック会」を 2 回（59 名）実施しました。更に（公財）東京しごと財団や第七ブロック等が主催した研修には、「安全リーダー研修」等で計 10 回（15 名）受講しました。

- (8) 「安全巡回」を計 10 回 (26 ヶ所) 実施した他、重篤事故につながる可能性の高い植木剪定班には別途 2 回 (5 ヶ所) 巡回を実施しました。
- (9) 事故に関連する会員 (28 名) に聞き取りを行い、再発防止策の検討を行ないました。

8. 社会奉仕活動

- (1) “ボランティア全員参加”を旨とし、地域班を中心とした社会奉仕活動の推進を図った結果、過去最高の参加があった「市内一斉美化清掃」や 9 つの地域班ボランティアを含めて、以下の実績となりました。
 - ・延人数 1,272 名 (前年度比 361 名増)
 - ・実人員 351 名 (前年度比 43 名減)
- (2) “住み良い街づくり”に向けた「町田警察署」との協定に基づき「町田地域安全のつどい」に参加 (21 名) をしました。又、日頃の地域安全活動を評価され警視庁より感謝状をいただきました。
- (3) 町田市ホームタウンチーム「FC町田ゼルビア」の試合運営の支援を行ないました。
- (4) 公益性の高いボランティア活動として、「日本赤十字社献血運動支援」を行ないました。
- (5) 町田市との協定に基づくシルバー業務中の「高齢者見守り活動」を継続して実施しました。
- (6) 未来を担う子どもたちへの支援として、「下校時見守り」や「昔遊び指導」等の学校支援を行った他、山崎団地名店街において「ぐりーんハウスで遊ぼう」活動を行ないました。また「文房具を贈りたいボランティア事業」について、寄付を受けた文房具類 (ノート、鉛筆等約 880 点) を町田市社会福祉協議会に寄贈しました。
- (7) 仕事別グループによるボランティア活動は、パソコン班のみでした。

なお、ボランティア活動の実績は、以下のとおりでした。

- ・地域班ボランティア (美化清掃 (みちピカ町田大作戦含)・花壇管理等)
 <森野・三輪町・旭町・本町田・小山田桜台・原町田・木曽 (東・西)・玉川学園> 延 449 名
- ・市内一斉美化清掃 (76 地域) 304 名
- ・町田ホームタウンチーム (FC 町田ゼルビア) 試合運営支援等 延 181 名
- ・日本赤十字社献血運動支援 延 88 名
- ・学校支援活動 延 21 名

- ・職種班ボランティア（パソコン） 延 27名
- ・函師小学校下校時見守り活動 延 199名
- ・山崎団地名店街「ぐりーんハウスで遊ぼう」活動 3名

以 上